

GOVERNOR's Monthly Letter



インスピレーションになるう

国際ロータリー 第2580地区ガバナー月信 vol.3

2018年9月号

資料

- 2P ロータリー文庫通信 (8月号)
- 3P コーディネーター NEWS 9月号
- 4~5P ハイライトよねやま 221号

ロータリー文庫通信

コーディネーター

NEWS

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース



ハイライトよねやま

ロータリー文庫通信

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50 周年記念事業の一つとして 1970 年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約 2 万 4 千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。

閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページで PDF もご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリー文庫通信 372 号 最近の資料より

書名	著者	発行年/頁
◎「ロータリーの扉を開く言葉」	服部芳樹	2018 11p
◎「ロータリー語ときあかし辞典」	服部芳樹・北川宥智	2018 43p
◎「日本のロータリーの伝統を守るクラブ細則」	服部芳樹	2018 12p
◎「職業奉仕委員会報告書ー永続・発展の職業奉仕とは！」	D.2530	2018 28p
◎「『内向き』と『外向き』わかりやすい職業奉仕」	D.2780	2018 43p
◎「プロフェッションの職業奉仕」(凡太の奉仕経営物語)	高良 明	2018 5p
◎「ヘルスイ ライフーロータリアンの願い」	小林 博	2018 17p

〔上記申込先：ロータリー文庫〕

書名	著者	発行年/頁
◎「ロータリーの心と原点〈改訂第8版〉」	廣畑富雄	2018 171p

〔申込先：(株)エムケイスペース FAX(092)737-9557〕

書名	著者	発行年/頁
◎「ロータリー財団ハンドブック」	D.2750	2018 123p

〔申込先：D.2750 FAX(03)5472-2750〕

書名	著者	発行年/頁
◎「初期ロータリーを顧みて」	鈴木 宏監修	2014 106p

〔申込先：鈴木宏 FAX(028)660-2224〕

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3 階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前 10 時～午後 5 時 休館＝土・日・祝祭日

Rotary Zones 1 & 2 & 3



コーディネーター NEWS

2018年9月号

発行：Zones 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター
担当 第3ゾーン

■ 「RI第3ゾーン戦略計画推進セミナー」

本セミナーはRC、RRFC、RPIC、3部門のコーディネーターが毎年度交代で幹事役を務め、西日本の主要都市で7月初旬に開催しております。本年度はRPIC部門が主幹事となり第3ゾーン11地区所属の125名の地区リーダー・クラブリーダーが参加し、大阪で開かれました。石黒慶一・三木明両RI理事、北清治TRF管理委員、水野功会員増強プロジェクトリーダー、高島凱夫RC、田村泰三RRFC、松本祐二EPNZC、大室備E/MGA、及び第3ゾーン11地区ガバナーが、プレゼンターとなり、各担当分野の「新年度戦略計画推進」についてご講演頂きました。

今回のセミナー基調講演者、水野功様には日本の全地区が直面しております会員基盤弱体化の課題と、その対応策、そして「日本ロータリーの3ゾーン復活」に向けた戦略計画についてお話し頂きました。そして締め括りとして、第3ゾーン各地区のそれぞれのガバナーの皆様へ、担当地区の「戦略計画」の進め方についてお話し頂きました。各地区がおかれた現況は様々です。その対応策も様々です。各地区ガバナーの戦略計画推進についてのバラエティに富んだプレゼンテーションは、セミナー参加者のRIリーダー、地区リーダー、クラブリーダーにとり、今後の地区運営、クラブ運営に大きな参考になりました。特に既存クラブでの会員純増がなかなか難しい中で、RAC卒業生などの若年層や、職務の第一線からリタイヤした年代層の新会員を「衛星クラブ」のメンバーとして迎え、会員基盤拡大に動きだしたD2660や、D2670の事例発表は、新時代の動きとして注目されました。

次年度の第3ゾーンセミナーは高島凱夫RCを主幹事として、2019年7月13日に大阪で開催予定です。次年度も各地区から多数の皆様にご参加頂きたいと願っております。



第3ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 横山守雄（大阪中央RC）

■ 「会員増強への道のり」

1: 受け入れクラブ自身の意識改革、環境整備を

先ずすべての面で魅力あるクラブであらねばならない。時代にマッチし、戦略計画に則り、活発な奉仕活動が実行され、会員同士の交流や親睦が図られ、地域住民から信頼されることが何よりも大事である。

2: 質より量を

会員増強についていつの世でも質だ、量だと言う不毛の論争を聞くが、私は量を重視したい。入会后クラブのアフターケアの有無でどんな新会員でも今後の運命は決まると思う。特に大切なのはロータリーの本質である奉仕の理念を少しでも理解し、古い会員との親睦の中でロータリーに慣れ、楽しんでもらうことが大切だ。

3: 女性会員を増やそう

世界の女性会員比率は既に20%強、日本のそれは6%強と大きく遅れる。各クラブとももっと女性会員獲得に積極的に動くべきだ、開拓の余地は充分にある。日本で女性会員数がせめて全体の1割を越えれば念願の10万5千人を越す。歴史と伝統のある大クラブほど女性会員加入に消極的であると言われるが、今こそ意識改革を望みたい。

4: 若い会員の入会促進

平均年齢維持と元気なクラブ作りの為には若い会員の加入は当然。大胆な例会運営改革、活動領域 拡大、将来のリーダー育成などを求めて若き経営者に好都合な条件が適応され、勧誘は容易になったように見える。

5: 新クラブ設立(従来型、衛星クラブ型、Eクラブ型 など)

現在、従来型の新クラブ設立は何処であろうとも不可能に近い。そこで考案された新型のロータリークラブとしてweb活用のオンライン例会、即ちEクラブが、続いて衛星クラブが新カテゴリーの中で誕生し、忙しく若い方のため柔軟性のある運営を前面に出したクラブが世界各地で誕生した。第3ゾーンでも最近大阪と香川県にそれぞれ産声を上げた。今後も大いに期待し、会員増強の一助になるよう祈っている。

6: 隗より始めよ

「Member Get Member」という言葉がある。すなわち、「会員一人が新会員一人入会させよ」という意味。私達地域リーダーも含め、各クラブ会長が先頭に立ち増強に努めましょう

第3ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 伊藤文利（倉吉RC）

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース



ハイライトよねやま

2018.8.14

Vol.221

2019年4月採用米山奨学生の募集を開始

2019年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山奨学委員会からの報告により決定した指定校は、全国で538（前年度534校）。指定校からの被推薦者数は1,784人（前年度1,733人）で、この中から新規奨学生617人（*）が選ばれます。（*）継続生辞退、奨学期間半年および地区奨励奨学生採用により変動有り

大学・大学院以外の教育機関在籍者を対象とする地区奨励奨学金を導入したのは12地区で、指定校は23校、そのうち初指定は4校でした。今回は、初めて全34地区が地区独自の選考基

準（地区選考の目安）を提示しました。最も多かった要望は「申込者が1カ国に偏らないよう国籍割合に配慮してほしい」（32地区）、次いで「ロータリー活動への積極性」（29地区）「日本語能力」（22地区）などが挙げられました。

指定校通知および募集要項・申込書などの書類は8月3日に指定校にメール配信しました。指定校からの応募期限は10月15日です。

※2019学年度採用の指定校一覧や募集要項・申込書式は当会ホームページにて公開しています

寄付金速報 — 2018-19年度も好調にスタート —

2018-19年度の寄付金は約2億3,000万円、前年度と比べて7.1%増（普通寄付金3.1%増、特別寄付金18.8%増）約1,500万円の増加となりました。2007年度以降直近12年間の中では最高額となり、順調な滑り出しとなりました。

ご寄付をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。米山記念奨学事業は、日本のロータリーが世界に誇るプログラムです。今後とも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

日台インターアクト交流、米山学友が懸け橋に

8月2～5日、第2660地区（大阪府）インターアクトが海外研修のため台湾を訪問し、第3461地区（台湾）インターアクトと交流をしました。同地区インターアクトは毎年、海外研修を行っています。今回、多くの米山学友が会員として所属する台中文心RCとの協議を重ねるなかで、初の台中訪問が実現。第3461地区から15校145人、第2660地区から10校55人のインターアクター、両地区のロータリアンが総勢330人以上参加する交流会となりました。

日台インターアクター共同での奉仕活動のほか、それぞれが自国の文化紹

介やダンスなどの発表をし、最後には大きな輪になって全員が盆踊りを踊りました。

第3461地区の張光雄ガバナーは「とても良い勉強の機会になったと思う。日台の学生の情熱を感じることができた。初の交流だが大成功だったと思う」と述べ、第2660地区インターアクト委員長中野隆二氏も、「米山奨学会の長年の取り組みの一つの成果だと思う。一朝一夕にはできない事。先輩のロータリアン達に感謝している」と、感想を語ってくださいました。

（取材協力：ガバナー補佐エレクト、元地区米山奨学委員長 福田治夫氏）



モンゴル米山学友会から西日本豪雨被災地への義援金

「平成30年7月豪雨」は、西日本各地に甚大な被害をもたらしました。このニュースに心を痛めたモンゴル米山学友会では、3月に就任したばかりのオイドブ・バトゲレル会長

(2005-07/前橋RC)が中心となり、会員に義援金を呼び掛けました。

7月20日、同学友会を代表して、創立会長のジャンチブ・ガルバドラッハさんと第3代よねやま親善大使のエンフボルド・ボロルトヤさんが当会事務局を訪問。今なお避難生活を送る被災者や復興のために尽力する方々を気遣い、「被災された皆さまのために少しでも役立てていただけたら」との気持ちを綴ったお見舞い

の手紙と共に、モンゴル学友36人からの義援金14万9,050円を届けてくれました。義援金は全額、第2710地区(広島県・山口県)に送金しました。



ウイグル出身の米山学友らが西日本豪雨被災地へ

8月4日、関東在住の中国新疆ウイグル自治区出身の米山学友・家族計16人が、岡山県倉敷市の西日本豪雨被災地で、土砂撤去などのボランティア活動をしました。そのうちの一人、イスカンダル アブドバリさん(2017-18/川越RC)によると、今回の活動は在日ウイグル人有志団体が企画。総勢43人が現地に赴き、行くことのできなかつた人たちも募金に協力して、義援金30万円を寄付したそうです。

ボランティアを終えたアブドバリさんは、「学友として、ロータリアンの方々にもいつも感謝の気持ちで胸いっぱいです。今回のボランティア活動は恩返しとまでは言えないが、災害地の皆様への応援の心が少しでも伝わればと思います。災害地の早期復旧を祈っています。今後もこのような活動に積極的に参加し、少しずつ恩返しして行きたいと思っています。日本、頑張れ!」と、メッセージをくださいました。

今回のボランティア活動に参加した米山学友

- ・ディリムラット テリワルディさん(2003-04/熊谷RC) ・マヒムト アブドワイトさん(2011-12/坂戸RC)
- ・天山 シェムシデンさん(2005-06/児玉RC) ・オシュル イブラヒムさん(2015-07/坂戸さつきRC)
- ・イブライム アジさん(2005-06/羽生RC) ・イスカンダル アブドバリさん(2017-18/川越RC)
- ・サイダル アブドサマティさん(2018-09/坂戸RC) ほか8名および学友の配偶者1名

